

金融を手作りする

⑮

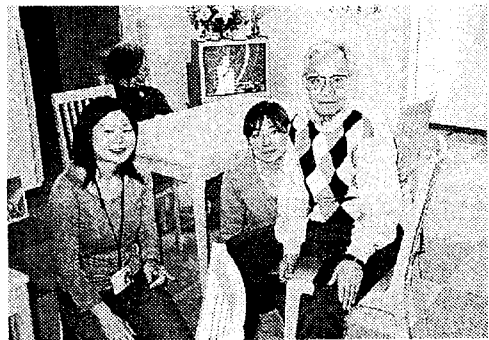
債券で地域医療振興

「中井さん、債券に詳しいですか」「債券営業をしていましたが」。二〇〇二年秋、旧あさひ銀行を退職して間もない中井恵美子(56)は、ある会合で公認会計士の松田紘一郎(63)に声をかけられた。

松田は、病院経営者団体の日本医療法人協会が同年十月から発足させる「医療法人資金調達研究会」の委員を探していた。協会会長の豊田堯(67)は当時を思い起こす。「銀行の貸し渋

りを懸念する病院経営者の声が協会にも届いていた。何とか自分たちで銀行融資以外の資金調達のパイプを増やせないかと考えた」。中井は銀行に三十年勤め、同年三月末、入院中の母の看病に専念しようと退職した。だが、退職のその日に、母は息を引き取った。仕事と家庭に奮闘してきた中井を支え、認知症の父を一人で世話してきた母。その死を十分にみとれなかった悲しみは、医療、病院な

ドキュメント 挑戦



高松市にある高松ホームグループの病院債

会社以外は発行できない。研究会は〇三年末、出資法とは別に学校法人が学校債を発行することなどを参考に、五十人未満対象の少人数私募債方式での病院債の自主ルールをまとめた。債券発行した病院は債務者として、経営方針や財務内容を債権者に説明せねばならない。債券購入者は、患者や家族の視点から病院経営に注文を出すことも可能。債券は地域医療振興債と名付けた。地域コミュニティの中に「手作り金融」を通じ、医療を位置付ける思い。投資家は社会的責任投資(SRI)としての購入を期待した。昨年二月、東京・葛飾の明正会が第一号となった。グループホーム改築資金のうち四千九百万円を一口百万円で募集。「集まるか不安だった」と理事長の近藤正明(54)。ところが新聞報道で知った患者が、発行前に現金百万円を診療所に持参するなどで完売。その後も、栃木、広島、山口で発行が続いている。厚生労働省も動いた。昨年十月に医療機関債ガイドラインを公表。自主ルールを役所が追認した形だ。同省はさらに〇六年度に導入を目指す公益性の高い認定医療法人に、公募債も認める方針という。

患者の思い、行政を動かす

どと普段、接してこなかったことへの後悔も絡んで、中井の心に重く残った。健康なうちに医療を理解し、いい病院に出会えないか。松田の誘いに中井は即座に応じた。研究会は松田が委員長となって始まった。中井は医療機関債(病院債)の主査を務めた。

病院の資金需要は、病棟建設、医療設備導入などの際に起きる。融資への集中リスクを避けるには、社債や株式が望ましいが、株式

債は債務者として、経営方針や財務内容を債権者に説明せねばならない。債券購入者は、患者や家族の視点から病院経営に注文を出すことも可能。債券は地域医療振興債と名付けた。地域コミュニティの中に「手作り金融」を通じ、医療を位置付ける思い。投資家は社会的責任投資(SRI)としての購入を期待した。昨年二月、東京・葛飾の明正会が第一号となった。グループホーム改築資金の

債券購入者の意識も明瞭(めいりょう)。明正会の債券を購入した埼玉の主婦、下村摩里子(43)は「父親も高齢で一人暮らし。自分のお金をどう使うかを考えた」。東京の宮田智恵(71)も「お金の行き先を自分で管理したい」との思い。グループホームも見学した。明正会には英タイムズ紙が取材に訪れ、フィナンシャル・タイムズも見学が来た。「日本の金融と医療が変わり始めたらしい」と。敬称略(編集委員 藤井良広)